

物部川清流保全推進協議会部会 WG
濁水対策を進める WG 要旨

日 時：平成 22 年 10 月 27 日 10:00～12:00
場 所：のいちふれあいセンター
香南市野市町西野 534-1
出席者：別紙のとおり

内容

1. 事務局（環境共生課）より、平成 22 年度に重点的に取り組むテーマ、平成 22 年度スケジュールの説明
2. 事務局（環境共生課）より、「物部川の濁度の計測結果（H20～H22）」の説明
3. 県河川課より、「平成 22 年度 物部川の濁水状況について」資料の説明

<主な意見>

- ・農業濁水は、観測地点と代掻きの時期、雨量のデータをセットで考えて資料を作成したほうがよい。このデータでは、計測時期と代掻きの時期との関連が明確でない。
- ・濁水対策は物部川本流の水量も確認したうえで、濁水は検討しないといけない。本流の水量が少なければ濁水の影響がもろに出てしまう。また、支流からの濁水がどれぐらいか調査する必要があるのではないか。
- ・現在の濁水は魚への影響が大きい。水生生物が壊滅状態で川が死んだ状態だ。泥水が川へ流れ込むと石へ引っ付くなど、いろいろな要素で水生生物が死んでしまっている。このことを念頭において濁水対策は考えてほしい。

(県より)

- ・支流の濁水調査も検討したい。自動濁度計の導入は経費が高くて困難だが、濁水が一番ひどいときに計測しているか不明なので、調査時期も検討していきたい。
4. 各出席団体が、資料「物部川の清流保全対策のステップアップシート」を作成し、濁水対策に対して、
 - 今後の重点対策（現在やっていること、新たにやること）
 - 他の団体と連携・協働を行うこと（人、物、資金、情報等）を発表した。

<高知工科大学>

- ・小さなチェックダム（せき）を作って濁水を抑えるのはどうか。
 - ・・・タイ・中国からの留学生からの意見
- ・間伐体験への学生の参加の呼びかけ。

- ・森林整備の取組みも含めて物部川流域のシンポジウムを、工科大の講堂で実施してみてもどうか。

<JA 土佐香美>

- ・農協としては現状確認が出来ていない。農家への広報により周知を図り、課題・対策を立てていきたい。
- ・濁水データの資料について、地図とあわせてデータをまとめてもらえば農家への広報がやりやすい。支流から本流へ流れてくる濁水がどれくらいか、水質への影響がどのくらいかなど、時期でまとめてもらえたら農家への広報がやりやすい。

<山田堰井筋土地改良区>

- ・年2回（6月・12月）、代掻きに関する広報を実施しているが、広報時期が早いいため実践に生かしきれていないかもしれない。
- ・農地からの濁水を圃場へ入れて、上水を落とすといった調査で農家への効果を数値的に示せばどうか。

<21世紀の森と水の会>

- ・当団体では啓発活動が主体。特に森林崩壊の現状を知ってもらい、土砂の崩壊、川の現状など、森を守る意義を伝えていきたい。
- ・子どもたちへの環境学習、川の駅の実施もやっている。
- ・森・川・海のつながり、人と人とのつながりの面で環境バスツアーを開催している。
- ・アユ（川の生き物）を守る視点で活動している。
- ・流域の環境保全に取り組むことで、最近では意識も上がってきた。今後もこれらのことを言い続けて継続していき、みんなに現状を知ってもらいたい。
- ・物部川清流保全計画の素案作りにも携わってきたので、今後も流域の環境保全のことを言い続けて、責務を果たしていきたい。

<香美市>

- ・間伐の推進と早急な治山工事の実施。
- ・県の森林環境税などを活用した山への重点投資を図りたい。
- ・農業濁水に関しては2月の広報で代掻きの注意点を載せて啓発を行っている。
- ・物部川の清流保全として、農家だけではなく市民へも課題の共有を図っていきたい。

<香南市>

- ・私有林間伐への助成、森林組合への助成を実施している。
- ・代掻き濁水については、広報誌での周知。

<南国市>

- ・代掻き濁水の広報を含め、一般的な環境保全対策の啓発、団体への呼びかけが重要。
- ・3市（物部川流域ふるさと交流推進協議会）の取組みとしても、啓発を強化したい。
- ・学校教育の面では、将来のために子供たちに現状把握をしてもらうことに重点を置く。

<国交省>

- ・広報・啓発の継続。濁水・濁度のデータ収集、計測の頻度を地点も含めて上げていきたい。
- ・他の河川でのいろんな取組み事例を調べて物部川への適用策を図っていきたい。
- ・濁水は昔は無かったので何が原因なのか考えてみてはどうか。山の崩壊も大きな原因だが、各分野で昔と何が変わったのか考えてみる必要がある。

<四国森林管理局>

- ・源流域（国有林）が平成16年から平成17年の大雨で多数崩壊したことが濁水の原因の一つ。これらの林地崩壊の対策工事を予算が伴うが計画的に行っていきたい。
- ・間伐の推進とあわせて、子どもたちを含めた森林環境教育の実施（シカの食害・ネット張り）

<河川課>

- ・出水時の支川流入濁度の状況など、濁水の調査地点やその頻度などについて検討していきたい。
- ・平成16年から17年の災害を受け、流域の濁水長期化防止対策として、現在、微細流土砂の撤去や分画フェンスの設置を、平成21年度から23年度にかけて、河川課（永瀬ダム管理事務所）が主体となって事業実施中である。

<公営企業局>

- ・選択取水の運用を継続し、データ分析を行い、その結果は濁水対策検討会へ報告をしていきたい。
- ・濁度は、永瀬発電所取水口前（永瀬ダム）と釜ヶ淵（杉田ダム下流）の2ヶ所で自動濁度計で計測しており、データはホームページで公開している。（週1回更新）
また、永瀬ダムから新物部川橋までの9地点を毎週1回現地に出向いて測定している。
- ・物部川上流域の間伐やシカ対策に対して上乗せ補助を行っているので有効活用していただきたい。
- ・局でも、取水口周辺の堆積土砂の問題があるが、浚渫するには多額の費用が必要なため、国庫補助などがないと、なかなか実施することができない。安価な方法で浚渫できないか検討をしている。浚渫の祭は、どうしても濁水が発生すると考えられるため、実施する場合は事前に説明をさせていただくので、ご理解を願う。

<農業基盤課>

- ・排水調節のしやすい排水溝の整備。
- ・農地災害時の市町村の支援など、災害時の復旧に速やかに対応していく。
(農業基盤課は圃場整備が主体なので、代掻き(営農指導)は環境農業推進課が所管しているため、この会議に出席してもらえばどうか)

<農業振興センター>

- ・広報誌への啓発に関する記事を書けるなど啓発活動を実施していく。
- ・農家が集まる育苗講演会での啓発活動。

～まとめ～

<大年会長>

- ・多かった意見として、代掻きの広報活動の重要性、広報時期が早く実践に生かしきれていない面など、代掻き対策の重要性が多かった。

↓

- ・今後、濁水対策ワーキングでは、代掻き対策にテーマを絞り込んで、取組んでいくこととする。
- ・濁度の計測結果を充実させて、うまく広報活用していきたい。
- ・データを収集する場合は、農家へ訪問して直接現地で確認しながら数値を計測することや、観測地点と代掻きの時期、雨量のデータをセットで考えて資料を作成したり、川底のヘドロの写真をとるなど、説得力のあるデータとしていく。
- ・シカの食害による濁水の影響がどの位あるか裏づけ資料がないか。
- ・昔は濁水は無かったという意見があった。昔と今で何が違うのか、それぞれが根本に立ち返ってみることも重要。

◆この部会は、農業濁水をテーマに絞る。

◆濁水の原因は森林崩壊の影響が大きいですが、森林の話は「山の保水力の回復を図る WG」で議論する。